

新宿商人

新宿区商店会情報誌

〔 しんじゅくあきんど 〕

vol.39

[2026年6月号]

発行:新宿区文化観光産業部
産業振興課

☎03-3344-0701

FAX:03-3344-0221

✉shoten-rece

@city.shinjuku.lg.jp

防災

でした。

平時のコミュニケーション

十分な備えと

大切なのは、

商店会と



東京都の災害リスクで最も深刻な被害が想定されるのが、「首都直下地震」だ。国によれば、南関東地域でマグニチュード7クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70%とされている（文部科学省・地震調査研究推進本部調べ）。東京においては、最悪の場合では死者6,000人

超、建物被害は20万棟近くと、極めて大きな被害が想定されている。さらに揺れの後も密集市街地での火災、道路・鉄道の寸断、上下水道や電力などのライフラインの停止が広範囲に及んでいくおそれがある。そこから帰宅困難者の発生、医療・福祉体制の逼迫、企業活動の停滞など、

区民生活と社会経済に長期的な影響を与える可能性がある。商店街は災害後の物資供給拠点としての役割を期待されるが、まず大切なのは命。平時から、店舗の耐震化や什器の転倒防止、火災予防、備蓄、避難経路の確認などの対策を着実に進めていきたい。

RISK ①

発生確率は30年で70%

首都直下地震



新宿区を襲う 自然災害リスク

防災の基本は「備え」だが、
どのような災害に備えれば良いのだろうか？
現在、東京都や新宿区で想定されている
自然災害について、まずは学んでいこう。

RISK ④

インフラに甚大な被害

富士山噴火

江戸時代の宝永大噴火（1707年）以降、大規模な噴火は発生していない富士山。仮に噴火した場合、東京都では溶岩流よりも火山灰の影響が大きい。少量の降灰で交通麻痺の可能性もあり、個人には健康被害を、店では精密機器の故障や空調設備の不具合も引き起こしうる。防塵マスクやゴーグルなどを備えておきたい。



RISK ②

川沿いは要注意

都市型水害

短時間の集中豪雨によって排水能力を超過し、浸水被害を生む「都市型水害」。毎年のように各地で起こっているが、新宿区でも特に神田川・妙正寺川沿いの低地では河川増水の影響を受けやすい。店舗内への浸水による商品や備品の汚損、営業停止などによる経済的損失は大きい。新宿区の「洪水ハザードマップ」を参照しながら、いざという時の避難経路や備えを確認しておきたい。



洪水ハザード
マップ



RISK ③

熱中症が急増

猛暑・酷暑

ヒートアイランド現象と地球温暖化が重なり、記録的な酷暑が頻発している東京。熱中症による健康被害も甚大だが、事業者にとっても、夏の来客数の減少や品質管理の難しさ、空調コストの増大など、経営基盤を揺るがす重大なリスクになる。商店会は、酷暑を「毎年の災害」と解釈し、地域一体での対応策を検討したい。



Contents

【しんじゅくあきんど】
新宿商人
vol.39

※本誌の掲載内容は、令和8年6月現在の情報です。

【特集】

商店会と防災

いつ起こるかわからない自然災害。
地域コミュニティの担い手でもある商店会は、
いざという時にどのような役割を果たせるのだろうか？
災害のリスクと備え、そして商店会だからこそできる防災のかたちを
専門家の声や事例を通して学びます。

01 新宿区を襲う自然災害リスク

02 Interview

日常のつながりが災害時の希望に 跡見学園女子大学教授 鍵屋一さん

04 [Case Study]

防災イベントで街の絆をつくる 神楽坂商店街振興組合

06 防災活動に都の商店会防災補助金を活用しよう!

07 INSPIRED 区外事例に学ぶ。 BCP(事業継続計画)策定 中島商店会コンソーシアム(北海道室蘭市)

08 新宿商人物語「つなぐ」 随喜産業(上落合発展会)

裏表紙 商店街 News
【知っておきたい今夏のトピックス】

商店会は地域防災の中心！ 日常のつながりが 災害時の希望に

前ページで見たように、大規模災害はいつ発生してもおかしくない。その時、商店会や事業者はどのような対応が求められるのか。板橋区で商店街振興や防災対策に長年携わり、現在は跡見学園女子大学で防災・危機管理を研究する鍵屋一教授に聞いた。

PROFILE



跡見学園女子大学
観光コミュニティ学部 教授

はじめ 鍵屋 一さん

板橋区で防災や商店街活性化に関わった後、2015年から現職。地域防災全般を研究・実践しており、国の防災関連の委員も歴任。自ら復興支援にも取り組む。危機管理教育研究所主席研究員も務める。

まずは身の回りの
安全確保を平時から

商店会の防災対策について、鍵屋教授は、首都直下地震を念頭に、「まずは自分や家族の命を最優先にしてください」と話す。「当然ですが、商売をやっている被災者であることには変わりません。災害発生時には、何よりも

安全を確保してください。大事なものは、そのための準備です」では、商店会や個々の店舗は、具体的にどう備えておくべきなのか。鍵屋教授は、物理的なリスクの低減と、最低限のインフラ確保を挙げる。

「店舗は前面がガラス張りであることが多く、破損すれば来街者や従業員が負傷する危険があります。また、看板や棚、照明などの転倒・落下も危険です。まずは危険な箇所を洗い出し、できることから耐震化やストッパーの設置などを進めることが重要です」

また、インフラ確保として特に重要なのは、トイレ、電気、水だという。災害時、トイレは生活の質と衛生を守る重要なインフラで、不足すると感染症の蔓延にもつながり、多大なストレスを生む。「断

水時にも使える簡易トイレや、排水の工夫を考えておくことが望ましい」と、鍵屋教授は話す。また、電気については、個店での備蓄はもちろん、商店会全体で用意しておくことも検討したい。

商店街の再開が 地域の復興に貢献

商店会の防災では「共助の力」が重要だ、と鍵屋教授は言う。「商店会の真価は、助け合い・支え合いにあります。共助こそが、有事の際には大きな力になります。一人では難しくても、商店会として動けば力を発揮できることがたくさんあるのです」

ただし、形だけの組織ではいざというときに意味をなさない。平時から顔の見える関係をつくり、災害時の行動を想定してまとめておくことが大切だ。災害から業務再開までの道筋を示す、事業継続計画（BCP）と呼ばれるものだ。「みんなで頑張ろう」という共通

災害時に地域住民が商店街に 期待する主な補完機能

※東京都商店街振興組合連合会「防災に関する意識調査」（令和6年10月）

- ☑ トイレや水道など
商店街内の設備提供
- ☑ 緊急避難者への物資提供
- ☑ 放送設備の活用による
情報提供

災害時、地域住民は商店街に多くの期待を寄せていることが分かる結果に。特にトイレや水道の設備提供は約70%が希望。商店会の防災啓発活動も高く評価されていた。防災は地域との関係性づくりの一手になりそうだ

備えあれば憂いなし！

BEST
3

商店会向け防災グッズ



備蓄水

生命維持に不可欠な飲料用のほか調理や衛生管理に欠かせない防災用品の基本。5～10年保つ長期保存水が主流だが、ペットボトル水や給水袋などで生活用水を備える方法もある。一人一日3リットルを三日分が備蓄の目安。できれば一週間分を備えたい。



非常用トイレ

断水時の排泄トラブルを防ぎ、感染症リスクや精神的ストレスを軽減する。便器にかぶせる凝固剤タイプのほか、組み立てるポータブルタイプも。消臭効果の高いものや、目隠しの付いたタイプなど選択肢は豊富。人数と日数分の備蓄が必要だ。

発電機

停電してもスマホが充電でき情報収集を行える。また、照明や冷暖房機器などを動かし安全確保を支える。ガソリン式、カセットボンベ式は、必ず屋外での利用を。あらかじめ充電・蓄電できるポータブル電源もある。



東京都の 防災補助金を 活用しよう

これらの防災グッズを商店会として購入する際に活用できる制度が、東京都の「商店街防災力向上緊急支援事業補助金」。令和8年度も継続実施される予定だ。詳しくはP6をチェック！

長蛇の列ができていたという。「避難所に行けば物資はあるんですよ。それでも、みんな店で買いたい物を持っている。買いたい物は、単に物を手に入れる行為ではなく、自分で選び、買うという主体的な行為なんです。買いたい物ながら「涙が出るほど嬉しい」とおっしゃる被災者の方もありました。商売は、生きる力や喜びを提供す

写真は震災から4日後の「みやぎ生協 虹の丘店」。被災者が長蛇の列をつくった（資料提供：3がつ11にちをわすれないためにセンター／せんだいメディアテーク）



ることにつながるのだと思います」物販だけでなく、飲食店の役割も大きい。災害時、温かい食事や人と出合える場所は、地域住民の不安を和らげる。実際、これまでの震災では、いち早く仮設商店街がつくられてきた。「商店街が先んじて復興し、商いの明かりを灯すことが、地域住民にどれほどの勇気を与えるか。そ

の力は計り知れません」

平時のにぎわいが 有事の防災につながる

災害時に商店会が復興の中心であるためには、やはり平時からのつながりが鍵を握る。

「いざという時に助け合える関係性は、一朝一夕には築けません。店主とお客さん、あるいは店主同士の日常的なコミュニケーションこそが、災害時に力を発揮します。防災訓練も、そつたつなかりをつくる手段として考えるといいでしょう。顔の見える関係があるからこそ、人は地域のために頑張れる。そして、商店会は地域の中で最も『顔が見える』組織であるはずなんです」

また、商店会の中に防災委員会を設け、女性や若者、外部の人材も関われる居場所をつくることも効果的だという。次代の街の担い手を育てていくことは、結果的に商店会の防災力を高めていく。「商店会にはものを売る力、人が集まる力、顔の見える関係がある。それはすべて、災害時に活きる資産です」

防災イベントで街の絆をつくる

阪神・淡路大震災を契機に
防災を「楽しく学ぶ」

神楽坂商店街振興組合は、防災活動に熱心に取り組んできてきた商店会だ。活動のメインとなっているのが、防災イベント「神楽坂

防災ふれあい広場」(以下、「防災広場」)。同イベントはこれまでに27回を数え、いまや一日で約500人が訪れる街のビッグイベントとして定着した。
「もともとは、1995年に起きた阪神・淡路大震災がきっかけで

族連れで楽しめるイベントとなっている。

街にいるすべての人の
命をつなぐために

「防災広場」の特筆すべき点は、協力機関の多さだ。消防署はもちろん、警察、学校、地域団体、医療機関、民間企業まで積極的に開催に協力している。

「ここには商店主だけでなく住民もいれば遠くからの買い物客や観光客もいる。多くの方々が交わる地域の中心だからこそ、有事の際私たちは街にいるすべての方々の命をつなぎとめる役割を担っています。しかし、それは商店会だけではできません。地域と防災に関係するすべての方と密接に連携する必要があります。イベントはそうした方たちと顔を合わせて信用を高め、いざという時に備えるためにあります」

防災イベントは、地域住民に向けて商店会の存在感をアピールする絶好の機会にもなる。特に神楽坂のように新たな住民が年々流入する街において、こうした大規模なイベントが、顔の見える関係を築く第一歩にもなる。
「人と人とのつながり」こそが、最大の防災力です。隣の店の店主が誰かを知っている、困った時に声を掛け合える。その日常の延長

さまざまな団体がこの場に集結！



開催を重ねるごとに参加団体が拡大していった「防災広場」。イベントのコンテンツも多様性を増し、お互いの交流が進む。防災で重要な「共助」を育む場となっている



EVENT



神楽坂商店街振興組合理事長の横倉泰信さん。防災だけでなくさまざまな地域活動に取り組み、愛してやまない神楽坂の歴史と文化を後世に伝える

した。この入り組んだ地形の神楽坂で、あのような震災が起これば甚大な被害が出ることは明らかだった。商店会や住民、来街者の意識を高めるために「防災広場」をスタートしました」

そう話すのは、同振興組合理事長の横倉泰信さん。工夫したのは、防災を「楽しく学ぶ」という点だという。

「大事なことは防災という言葉を身近に感じてもらうこと。体験型にして、老若男女が楽しめるように心がけています」

実際にイベントでは、消火体験、AED講習、応急処置のデモンストラクション、はしご車乗車体験など、体験型防災コンテンツが目白押し。さらに、近隣中学校による防災コンサートやアルファ化米(非常用保存食)の試食など、家

線上に防災があると考えています」

安全は最高のおもてなし
次世代に防災をつなぐ

時代の変化にあわせ内容の拡充も行ってきた。AED(自動体外式除細動器)に関しては、15年ほど前から普及に尽力。商店街マップにも設置場所を明記しており、誰でも迅速にアクセスできる体制を整えている。

年に一度情報を更新する商店街マップ。AEDだけでなくトイレの場所も示すなど来街者にうれしい内容



「防災の形も日進月歩で変わっています。若い人たちの新しい意見を反映し、次の世代につなげていかなければなりません。いつの時代も、安全は、最高のおもてなしですから」

街を愛し、街に根付いた商店会だからこそ、持続的な防災活動を実現できる。地域防災の主役として、神楽坂商店街振興組合は未来を見据えている。

新宿区内32の商店会が申請
補助金活用で備えを加速

都内商店街の防災用備蓄品購入を補助する「東京都商店街防災力向上緊急支援事業補助金」。令和7年度にはじまったこの補助金制度が令和8年度も継続実施される。昨年度は1商店会あたり最大30万円の補助（補助率10/10、超過分は自己負担）。保存用食料や消火



器 防災用品セットなど幅広く対象で、新宿区内32の商店街振興組合や商店会が活用した。目立った購入品は、「トイレ」「保存食・水」「懐中電灯」などで、この機にAED一式をそろえた商店会も。
令和8年度の詳細は今後公開される予定だ。詳しくは新宿区産業振興課（☎03・3344・0701）へお問い合わせを。

北

北海道室蘭市の中島商店会コンソーシアムがBCP（事業継続計画）策定に取り組んだきっかけは、2018年の北海道胆振東部地震による大規模停電だ。携帯電話はつながらず、ガソリンスタンドには長蛇の列。行政や医療機関などのインフラが優先的に復旧していくなか、商店街のスーパーや飲食店、美容室など多くの店が休業を余儀なくされた。

「地域の暮らしを支える商店会として、災害時に店主はどう動けばいいのか。危機感が生まれ、BCP策定に動きました」
そう話すのは、中島商店会会長の金濱元一さん。心がけたのは、防災活動を日常の延長に置くことだった。

3年間にわたる取り組みの中で、多彩なイベントや勉強会を実施。さまざまな人や団体が関われる余白を重視し、多様な意見と深いつながりを得ることに成功した



INSPIRED 区外事例 に学ぶ。

災害時にいかに行動し、経済活動を再開していくかを定めたBCP（事業継続計画）。商店街版BCP策定に取り組んだ中島商店会コンソーシアムの事例から、策定のプロセスと成果を学ぶ。

中島商店会コンソーシアム（北海道室蘭市）

BCP（事業継続計画）策定



中島商店会コンソーシアム：nakajima-s.com

中島地区の個別の商店街が抱える課題を克服し、地域活性化を強力に推進する目的で2010年に立ち上げられた中島商店会コンソーシアム。連携をキーワードに、場の運営や街の事業展開を行っている

と対策を学び、人のつながりも深まっていった。
3年以上にわたる地道な対話と巻き込みを経て、2023年2月に「中島商店街BCP」は完成した。災害時の連絡網、発電機の確保、炊き出しの体制などが明記され、商店会が担うべき「共助」

の役割が具体的に表現された。ただ、最大の成果は、「信頼関係」と金濱さん。

「日常から人と人が顔を合わせ、同じ方向を見て活動していれば、災害時にも助け合いが生まれます。若い世代が育った点も街の未来にとって大きな成果です」

また、近隣の商店会との連携も重要だという。

「私たちは、商店会5団体が結成した組織です。これからの時代、商店会は広域で地域をどうしていくかを考えていく必要があります。ましてや災害時は、隣の商店会と助け合っていかなければなりません」

BCP策定は、あくまで手段。事業者と地域の底上げこそが、防災力を左右すると言えそう。



防災用ヘルメット

十二社商店親睦会

十二社商店親睦会が購入したのは「防災用ヘルメット」。同会副会長の品川尚之さんは、「まずはそれぞれの生命を守ることが最優先。そこで業種を問わずに会員みなさんが使えるものを検討しました。ヘルメットは自分では買う機会が少ないですが、あると助かるもの。いくつかある種類の中からコンパクトで収納しやすいものを選びました」と選定の理由を話す。購入したヘルメットは各会員店舗に配布し、そのデザイン性もあわせて好評を博した。「商店会の加入メリットを体感いただけた。商店会の防災性と満足度を同時に上げられる良い機会だと思います」



ソーラーパネル、蓄電池、テントなど

神楽坂商店街振興組合

前ページで防災イベントの取り組みを紹介した神楽坂商店街振興組合は、この補助金を活用して複数の防災用品をそろえた。蓄電池や簡易テントのほかトイレなど、商店会全体の防災力を底上げするものだ。「近年の災害に鑑みると、情報のライフラインであるスマートフォンの充電や、冷房暖房など、電力の確保が避難生活の質を左右します。ポータブル電源の導入は、商店街が一時的な避難拠点としての機能を果たすために必須でした」と横倉理事長。今後、イベントなどでこれらの防災用品を使い、商店会全体で取り扱いに慣れていき、いざというときに備えていく予定だ。

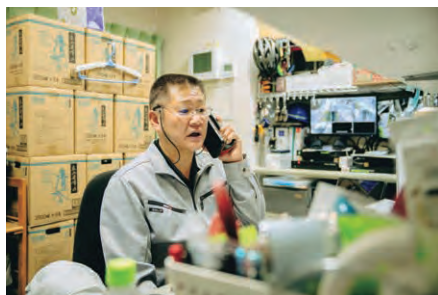


私たちは、こう活用しました！



地域活動に熱心に取り組む

随喜産業を立ち上げた先代は豪放磊落で、多くの人に慕われたとか。そんな親譲りの性格を持つ岡戸さんは、町の活動に積極的でいろんな人を巻き込んで盛り上げていく。商店会をはじめ、町会や小学校の同窓会、消防団、最近では保護司にも挑戦。そんな活躍を讃える表彰状がズラリと並ぶ。



上) 拓哉さんの入社以降、後方支援の役回りに徹する義光さん。社長業は午後4時まで、その後は町の活動に。下) 幼い頃からの拓哉さんを知る勉さんだからこそ、個性を尊重した指導で後継者を育成する

「受刑者の健康を考えて塩分を控えめにした味付けの缶詰や、計量しやすい100g単位の乾パンなど、現場目線でオリジナル商品を開発。これも現場の声にきちんと耳を傾けていればこそ。一見すると制約の多いような業態でも、兄弟の知恵で売上を伸ばせることに、やりがいを感じたという。」

そんな二人のもとに、3年前、岡戸さんの長男、拓哉さんが入社。叔父の勉さんと同じく、システムエンジニアからの転身だ。



随喜産業

新宿区上落合2-8-2
☎03-3368-5819

随喜産業のオリジナル商品。カレイや鰯、鯖など魚を使った缶詰が多い。味付けに工夫を凝らし、幅広い世代に喜ばれる味に。最近ではECサイトでも販売



父
岡戸義光さん

叔父
勉さん

子
拓哉さん

兄弟の強力タッグに
若い感性が融合し
稀有な家業を次代へ

つなぐ

上落合発展会 随喜産業

破天荒な先代から2代目、弟、そして子へ。
それぞれが補い合いながら
特殊かつ誇りある仕事を
大きく育て上げた3人の物語——。

全国の塀の中に 食料品を届け続け

随喜産業は食品の卸事業を営む会社だ。だが、卸先がちよっと変わっている。

「全国の刑務所や拘置所、少年院などに缶詰や乾物類などの食料品を納めているんです。祖父が戦後に商売を始め、東京拘置所へ納めるようになったのがはじまりです。その後、父が『随喜産業』と名付けて、少しずつ納入先を広げていきました」

そう話すのは、2代目である岡戸義光さん。幼い頃、不足分の缶

詰を届けるために、母と一緒に刑務所に出かけたこともあるが、子ども心にも特別な世界と感じたという。その後、「破天荒だった」という父に背中を向けるように板前として働いていたが、妻と結婚するために家業を継ぐことを決断。好んで選んだ道ではなかったものの、持ち前の営業力を活かして事業を拡大していった。

そのパートナーが3歳下の弟、勉さんだ。昔から仲が良く気心も知れている兄弟でありながら、個性が異なる。営業上手な兄がカバンひとつで1週間出張し、顧客開拓に取り組めば、実務能力に長けた弟が現場を取り仕切り、発注先に納品していく。家族経営の随喜産業が大手食品卸と肩を並べられるのは、この強力な役割分担があったからだ。ヒット商品も生まれ

2026
Summer

商店街 News

知っておきたい今夏のトピックス

新宿区商店会連合会公式キャラクター「はぴれん」誕生!

新宿区商店会連合会の公式キャラクターが誕生しました。
新宿区商店会連合会のブロック数である7の形をしている
耳が特徴的なこのキャラクターの名前は「はぴれん」。
加盟の商店会の投票で決定しました。
今後、新宿区商店会連合会が実施する
「商店街ハッピー商品券」事業や、
各商店会のイベントにも利用することができます。
ぜひご活用ください!

はじめまして
「はぴれん」です。
よろしくね!



お問い合わせ

新宿区商店会連合会 ☎ 03-3344-3130

活用例



シール



ポスター



うちわ

新宿ビジネスステーション「経営相談」のご紹介

中小企業診断士である
コーディネーターと
各分野の専門家である
アドバイザーが、
皆様の事業を
継続的に支援します。

お問い合わせ

産業振興課
BIZ新宿(西新宿6-8-2)4階

☎ 03-3344-0702

経営相談の
詳細について



解決したい
経営課題をお持ちの

中小企業
個人事業主※



※区内中小企業・個人事業主、区内で創業予定の方など

伴走
支援

＼ 経営全般の課題解決をサポート /

コーディネーター相談

- 強みと課題の整理
- 目標設定から達成までの継続サポート など



相談内容に応じて
アドバイザーを派遣

専門領域の課題解決をサポート アドバイザー相談

- 経営戦略
- マーケティング
- 法務
- 税務 など

専門分野の
アドバイス